

教科目標

- (1) 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性と意味を理解するとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、一元一次方程式を用いたりする能力を培う。
- (2) 平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直観的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。
- (3) 具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例についての理解を深めるとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を培う。
- (4) 目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。

1学期 主な学習内容（48時間）	2学期 主な学習内容（56時間）	3学期 主な学習内容（36時間）
1 オリエンテーション	1 夏休み明けテストの実施	1 冬休み明けテストの実施
2 1章正の数・負の数 (単元のまとめテスト)	2 3章方程式（単元のまとめテスト）	2 6章空間図形（単元のまとめテスト）
3 習熟度別コース分け実施	3 4章変化と対応（単元のまとめテスト）	3 7章データの活用 (単元のまとめテスト)
4 2章文字の式（単元のまとめテスト）	4 5章平面図形（単元のまとめテスト）	

評価の観点と規準（各観点の割合は、全て達成率100%で統一する。）

	評価の観点（1学期より抜粋）	評価の方法・資料	評価方法の基準と「概ねB評価」等の設定（行動目標）
I 知識・技能	〈例〉 ・正の数・負の数の加法、減法の計算ができる ・正の数・負の数の加法、減法の計算や加法の交換法則、結合法則について理解することができる。	[全教科共通] ・定期テスト 【各教科の方法・資料】 ・全7回単元テスト ・夏休み明けテスト ・冬休み明けテスト ・50問テスト	・テストでの観点Iの問題を50%程度の正答率で解答することができる。 ・定期テスト・小テスト・休み明けテストで、知識・技能の観点における点数が80%以上でA、50%以上80%未満でB、50%未満でCとしている。
II 思考・判断・表現	〈例〉 ・数直線をもとに加法の計算のしかたを考えたり、加法の計算に帰着させて、減法の計算のしかたを考えたりすることができる。 ・正の数・負の数を具体的な場面で活用することができる。	[全教科共通] ・定期テスト 【各教科の方法・資料】 ・全7回単元テスト ・定期テストの解きなおしプリント ・振り返りシート	・テストでの観点IIの問題を50%程度の正答率で解答することができる。 ・定期テストを解きなおしたプリントに記述した内容で評価する。 (記述例) ・計算問題では、間違えた途中式を赤で直し、次に間違えないために正しい計算方法やポイントを記入している。 ・ただ解きなおすだけでなく、「なぜそうなるのか考え方まで記述できている」、「自分なりに問題について考察できる」ものについては、思考、判断、表現の観点に加点する。
III 主体的に学習に取り組む態度	〈例〉 ・身のまわりの数から、0より小さい数を見いだそうとしている。 ・正の数・負の数の加法、減法の計算をしようとして取り組むことができる。	[全教科共通] ・「知識及び技能」の観点の評価 ・「思考力・判断力・表現力等」の観点の評価 【各教科の方法・資料】 ・リポート学習 ・定期テストの解きなおしプリント ・週末課題 ・振り返りシート ・定期テスト ・全7回単元テスト	・リポートや週末課題に取り組み、定期検査や単元のテストで身に付けたことを50%程度の正答率で解答することができている。 【各教科 独自の方法】 ・振り返りシートは点数化し、評価する。 ・学習内容を生かして数学的に考察、記述している。 A 社会や身の回りとの関係を深く考察している B 学習内容について学校生活等の身近なものについて考察している C とりあえず記述している、役に立つかわかっていない ・提出物（リポート学習、解きなおしプリント）は、A、B、Cで評価する。 A 途中式や計算方法が丁寧に記述されており、丸付けをしている。また、間違えた問題を赤で解き直す・解説が書かれている B 途中式や計算方法を記述し、丸付けをしている C 空欄が多数ある